

事業報告書

【第10期】

2022年度

自：2022年4月 1日

至：2023年3月31日

公益財団法人 日本漢字能力検定協会

事業報告書 目次

I. 事業の概要.....	2
1. 日本語・漢字に関する普及啓発・支援活動.....	2
2. 日本語・漢字に関する調査及び研究活動.....	5
3. 日本語・漢字に関する能力育成活動.....	7
II. 理事会・評議員会に関する事項.....	14
III. その他.....	15
IV. 後発事象.....	15
V. 附属明細書.....	15

I. 事業の概要

伝統ある日本文化の発展の過程において、日本語・漢字は文化の伝達と進展を根幹で支えてきました。公益財団法人 日本漢字能力検定協会は、社会生活に必要な日本語・漢字の能力を高め、広く日本語・漢字に対する尊重の念と認識を高めるとともに、我が国における生涯学習の振興を通じて日本文化の発展に寄与することを目的としています。

この目的を達成するために、本年度も国内および海外において次に掲げる公益事業に取り組み、あらゆる人々の日本語・漢字の“学び”を支える活動を行いました。

事業（定款第4条1項）

1. 日本語・漢字に関する普及啓発・支援活動
2. 日本語・漢字に関する調査及び研究活動
3. 日本語・漢字に関する能力育成活動
4. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

1. 日本語・漢字に関する普及啓発・支援活動

社会生活に欠かせない日本語・漢字に対する興味関心、尊重の念を抱き、生涯にわたって学習する動機付けや、言語生活が豊かに育まれる環境を整備するため、次に掲げる（1）～（6）の手段により、普及啓発・支援活動を行いました。

（1）漢字博物館・図書館（漢字ミュージアム）の運営

日本語・漢字に対する興味関心を高め、不特定多数の人々の学びの動機付けや促進につなげることを目的に、漢字に関する情報の収集や発信、展示を通して漢字の“面白さ”“楽しさ”“奥深さ”を体感しながら学ぶことのできる「漢字ミュージアム」を運営しました。

本年度の来館者数は53,025人でした。

①開館日数：269日（臨時休館日数：53日＊新型コロナウイルス感染症の影響）

②開館時間：午前9時30分（時間短縮日は午前11時）～午後5時

③休館日：原則、毎週月曜日（休館日が休祝日の場合は翌平日に振替）・年末年始

※新型コロナウイルス感染症の予防の観点から、臨時休館や開館時間の短縮を行いました。

④利用料：

大人		大学生・高校生		中学生・小学生		未就学児	障害者
個人	団体	個人	団体	個人	団体		
¥800	¥700	¥500	¥400	¥300	¥200	無料	無料

*団体は20名以上（団体引率者は10名につき1名免除）／障害者の介護人（1名）免除

○割引・特典制度

- ・修学旅行・課外学習グループ割（2名以上のグループ）
- ・小中高生1名以上と同伴している大人の割引（2名まで）
- ・年間パスポート（発行日から1年間有効）

大人	大学生・高校生	中学生・小学生
¥2,500	¥1,600	¥1,000

⑤ワークショップ・講座・講演会の実施

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に留意しつつ、中止していたワークショップの一部を再開しま

した。また、講座は聴講者数を限定した上で開講し、収録したものを後日webにて配信しました。

⑥企画展の開催

「今年の漢字展」を1企画開催しました。10月19日～2月26日 期間来館者数19,236名

(2) 機関誌の発行

日本語・漢字学習に資する情報誌として、日本語・漢字に関する様々な記事を掲載した「漢検ジャーナル」を発行（年2回）し、学習者・保護者・教員をはじめ、一般の方々に無料で配布しました。

「漢検ジャーナル Vol.34」（2022年8月1日発行） 発行部数41.1万部

「漢検ジャーナル Vol.35」（2023年2月1日発行） 発行部数50.4万部

(3) Webサイトの拡充

①漢字・日本語検索サイト「漢字ペディア®」 <https://www.kanjipedia.jp/>

漢字および日本語の学習を助け、さらなる興味関心を高めるための活動として、無料で漢字・日本語を検索できるサイト「漢字ペディア」を運営しました。このサイトは『漢検 漢字辞典 第二版』に掲載された漢字および語句のデータをもとに製作したもので、角川「新字源 改訂新版」と連携して漢字のなりたち情報も付加しています。パソコンやスマートフォンなどから調べたい漢字や語句をいつでも検索することができ、また、インターネット辞典「goo 辞書」とも連携をはかっているため、同辞典で漢字を検索すると「漢字ペディア」の情報が表示されるようになっています。3,925万pv/年間

②漢字・日本語キュレーションサイト「漢字カフェ®」 <https://www.kanjicafe.jp/>

漢字および日本語への興味関心を高めるための活動として、漢字・日本語キュレーションサイト「漢字カフェ」を運営しました。『漢検ジャーナル』等で当協会が発信したコンテンツはもとより、巷の漢字・日本語に関する情報を集めて発信していく情報サイトであり、身近な言葉に関する話題から少し学術的な話題までを分かりやすく伝えています。年間記事登録数53件 76.5万pv/年間

③言語活動に取り組む先生のためのサイト「TEACHannel」 <https://teachannel.kanken.or.jp/>

新しい学習指導要領に記述がある「言語活動の充実」に資するために、言語活動に取り組む先生方に情報を提供する会員制ポータルサイトを運営しました。全教科の学びを支える「言語活動」に役立つ情報をお届けしています。累計記事掲載数：実践事例80件 コラム135件

④「漢検 団体サポートサイト」 <https://www.kanken.or.jp/dan-sprt/>

各団体における目標達成や課題解決のために、検定（漢検・文章検）や各種協会コンテンツをより効果的にご利用いただくためのサポートサイトを開設しました。検定をご実施いただくにあたって、団体ご担当者の手間を軽減するために、さまざまなシーンでご利用いただける各種資料・ツールやToDoリスト付きのスケジュール等をご紹介します。12.36万PV/年間 利用ファイル数1.3万/年間

(4) 漢字文化啓発イベント

①今年の漢字®

『今年の漢字®』は、一年を振り返り世相を表現する漢字一字を考えることで、漢字の持つ奥深い意義を再認識していただく機会として、1995年から毎年実施している行事です。11月に、全国からその年の世相を表す漢字一字とその理由を公募し、最も応募数の多かった漢字を12月12日に清水寺（京都市）の森清範貫主の揮毫により発表しました。本年度は、応募総数223,768票のなかから「戦」が10,804票（4.83%）を集めて1位となりました。

②今、あなたに贈りたい漢字コンテスト

“漢字がつなぐ絆”をテーマとして、「想いを込めた漢字を贈る」ことで人との絆を感じるきっかけや大切な人への想いを改めて認識する機会をつくることを目的とし、漢字を贈るメッセージコンテストとして全国から広く作品を募集しました。10回目となった今回は6月1日から9月22日の募集期間において、「小学生部門」に7,372作品、「中学生部門」に22,477作品、「高校生部門」に16,971作品、「大学生・一般部門」に2,958作品、また「その他」として37作品、合計49,815作品の応募がありました。その中から以下59作品と団体賞受賞10団体を決定し、3月21日に漢検 漢字博物館・図書館において表彰式を執り行いました。

<賞区分>

- ・絆大賞(各部門につき1作品) 4作品
- ・日本漢字能力検定協会賞(各部門につき1作品) 4作品
- ・審査員賞(各部門につき3作品) 12作品
- ・佳作 39作品 合計59作品
- ・団体賞 10団体

応募のあった「贈りたい漢字」は計1,741字でした。

4部門を合計した「贈りたい漢字」は、「感」が最も多く、順に「謝」「笑」「楽」「愛」「優」「夢」「幸」「努」「友」などの漢字が並びました。部門別の応募数の多かった「贈りたい漢字」は下記の通りです。

順位	小学生部門	中学生部門	高校生部門	大学・一般部門
1位	楽	感	謝	謝
2位	優	謝	感	愛
3位	笑	笑	笑	笑
4位	友	楽	楽	楽
5位	感	優	愛	生

なお、昨年第9回の受賞作品を冊子化(10,000冊)し、応募団体や希望のあった団体に無料で送付しました。

(5) 漢字まなび活動助成

日本全国における漢字学習の振興を目指して、当協会以外の団体が行う、地域の漢字学習の振興に寄与する活動に対して、その活動費用の一部を助成する制度を、平成29年度より開始しました。活動1件あたりの助成金額は、活動に係る予算の二分の一以下かつ上限30万円としてホームページで公募した結果、本年度は、8団体9件の活動に対して助成しました。

(6) 支援活動

経済的、環境上の理由により検定の受検や漢字学習が困難な児童・生徒に対し、漢検の受検機会や学習書籍を無償で提供する学習支援を行いました。漢検の受検を通して日本語に親しむ機会を持つことで、漢字の運用能力や学習意欲の向上に役立っています。

【本年度の対象および支援者数】

- ・要保護児童生徒(義務教育課程在籍者)無償受検 延べ284団体 917名
- ・児童自立支援施設無償受検 延べ138団体 2,076名
- ・児童養護施設/児童心理治療施設への学習教材の無償提供 延べ199団体 4,769冊

2. 日本語・漢字に関する調査及び研究活動

日本の漢字とは何かを、漢字そのものの字体論や意味論等の側面から研究するのみならず、日本文化の側面からも研究する漢字文化研究や、日本語・漢字学習の普及啓発・支援活動ならびに日本語能力育成活動の深化と発展に資する研究活動を行いました。

(1) 漢字文化研究

①漢検漢字文化研究奨励賞

広く漢字文化に関わる学術的研究・調査等のうち、将来一層優れた展開が期待され、有望視される学究に対して、漢字文化研究奨励賞を授け、顕彰しました。本年度は8点の論考が寄せられ、以下5名の論文が選ばれました。受賞論文を「漢字文化研究 第13号」として刊行するとともに、協会ホームページにも公開し、更なる研究の深化を奨励しました。

各賞	受賞者（敬称略）	論文タイトル
最優秀賞	該当なし	
優秀賞	Anna Sharko (シャルコ・アンナ) オックスフォード大学 アジア中東学部 研究助手・非常勤講師	言語学・日本語学における文字論 －漢字の位置づけ・分析の問題－
佳作	ALBEKER András Zsigmond (アルベケル・アンドラーシ・ジグモンド) 東海学院大学 人間関係学部子ども発達学科 非常勤講師	明治期の速記術に取り入れられた漢字と乎古止点
佳作	呉 修喆 (ゴ シュウテツ) 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 アソシエイトフェロー	平城宮跡出土組み合わせ文字の水脈をたどる
佳作	仲村 康太郎 (ナカムラ コウタロウ) 京都大学大学院 文学研究科 博士後期課程1年	曹仁虎『転注古義考』と毘沙門堂蔵『篆隸文体』
佳作	楊 慧京 (ヨウ ケイキョウ) 京都大学大学院 人間・環境学研究所 博士後期課程4年	貝原益軒『千字類合』の字体規範

②日本漢字学会

学術団体「日本漢字学会」は、当協会が漢字文化研究のより一層の振興をはかるために全国の研究者に呼びかけたことがきっかけとなって、2018年3月29日に発足し、当協会漢字文化研究所が学会の事務局機能を担っています。11月19日・20日に第5回研究大会を早稲田大学において、対面とオンラインで開催しました。研究大会では口頭発表11編の研究発表があり、会員・一般の方あわせて約150名が参加しました。

(2) 日本語・漢字教育研究

①漢字・日本語教育研究助成制度

学校教育法に定められている学校等の教職員が行う漢字・日本語（国語）教育の実践的な研究活動に対して、研究活動費の助成を行っています。本年度は8件の応募をいただき、選考委員会による審査の結果、4件が採択となり2023年度研究活動費の助成を行うことが決定しました。

所属機関	研究（代表）者	研究題目
周南公立大学 経済学部	立部 文崇	日本語教師の専門性 —学習者の言語能力をどのように判別しているのか—
名古屋大学 グローバル・エンゲージ メントセンター	徳弘 康代	字源から語彙を拓げる学習方法の研究と学習資料の 開発
東洋大学 国際部	二子石 優	専門学校における日本語教育の実態調査および新た な教育プログラムの提案
東洋大学 社会学部	松崎 良美	「学びの危機」時代の漢字学習 —障害のある子どもたちの〈新しい合理的な学び〉から—

②検定の質的向上と能力判定の妥当性を高めるため、以下の分析を行いました。

- ・出題妥当性の検証
- ・受検者の誤答傾向の調査
- ・京都大学との研究プロジェクト「人工知能（AI）による漢字・日本語学習研究」の成果を活かした答案分析等

③漢字・日本語学習に関する学際研究

京都大学大学院医学研究科との研究プロジェクト「ライフサイクルと漢字神経ネットワークの学際研究」の学習期研究で得られた知見をもとにさらなる研究成果を追求するため、1年間の委託研究を行い、下記の研究成果が得られました。これまでの委託研究の成果は、当協会ホームページ上でも公表しています。

研究題目：漢字能力が脳機能の発達・維持におよぼす効果の科学的検証

A 漢字能力が文章力を高めるうえで重要な役割を果たすことの実証、B 学び方による認知機能への影響の測定、および個々の特性に応じた効果的な漢字学習方法の特定を目的として研究を進めました。各分野の研究結果は今後も当協会ホームページ等で公表予定です。

また、2017年度から2021年度に行った京都大学との研究プロジェクト「ライフサイクルと漢字神経ネットワーク学際研究」の研究成果を広報するため、12月18日（日）に公開シンポジウムを京都大学医学研究科と共同開催しました。

テーマ：人生100年時代、なぜ今、漢字の手書きが重要なのか？

～基礎学力の形成から認知症予防まで～

日時：2022年12月18日（日）14時～16時30分

場所：京都大学 百周年時計台記念館 百周年記念ホール および オンライン（Zoom使用）

対象：一般

参加者数：504名（オンライン参加者：414名／現地参加者：90名）

3. 日本語・漢字に関する能力育成活動

普及啓発活動によって日本語・漢字に興味関心を持った人々に学習する機会を広く提供するため、研修会、教材の発行等を行い、その学習成果と達成度を測る検定試験を実施し、合格証明書の発行を行いました。

(1) 「日本漢字能力検定」の実施報告

①検定級および検定料

級	検定料（税込）	
	公開会場 （個人受検・団体公開会場受検）	準会場 （団体受検）
1級	6,000円	-
準1級	5,500円	-
2級	4,500円	3,500円
準2級～4級	3,500円	2,500円
5級～7級	3,000円	2,000円
8級～10級	2,500円	1,500円

②実施日

2022年度は、年間16日程実施しました。

第1回公開会場、第2回公開会場および第3回公開会場での検定は、人数制限の上で実施しました。

回	公開会場日程	対象級	準会場日程	対象級
第1回	2022年6月19日（日）	1～10級	2022年6月17日（金）	2～10級
			2022年6月19日（日）	2～10級
			2022年6月25日（土）	2～10級
			2022年7月2日（土）	2～10級
			2022年7月8日（金）	2～10級
第2回	2022年10月23日（日）	1～10級	2022年8月23日（火）	2～10級
			2022年9月3日（土）	2～10級
			2022年10月21日（金）	2～10級
			2022年10月23日（日）	2～10級
			2022年10月29日（土）	2～10級
			2022年11月4日（金）	2～10級
第3回	2023年2月12日（日）	1～10級	2023年1月20日（金）	2～10級
			2023年1月28日（土）	2～10級
			2023年2月10日（金）	2～10級
			2023年2月12日（日）	2～10級
			2023年2月18日（土）	2～10級

③会場数

	第1回	第2回	第3回	計
公開会場	154	157	157	468
準会場	10,628	13,403	11,415	35,446
合計	10,782	13,560	11,572	35,914

④漢検 CBT (Computer Based Testing)

通常の年3回16日程の検定日に限定せず、より多くの受検機会を設けることを目的として、コンピューターを利用した漢検 CBT を実施しました。

	会場数	志願者数
公開会場	228	53,752
準会場	110	2,066
合計		55,818

⑤志願者数・受検者数・合格者数

2022年度の志願者数は1,536,399人でした。回・級ごとの内訳は次のとおりです。

第1回

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級	計
志願者数	974	6,031	46,396	76,060	113,707	61,886	51,371	25,560	23,955	22,988	20,530	16,914	466,372
受検者数	847	5,337	44,512	74,419	110,893	59,907	49,385	24,843	23,267	22,213	19,994	16,118	451,735
合格者数	81	733	12,678	26,482	56,117	31,954	36,107	20,172	20,267	18,732	18,154	15,589	257,066
合格率(%)	9.6%	13.7%	28.5%	35.6%	50.6%	53.3%	73.1%	81.2%	87.1%	84.3%	90.8%	96.7%	
1級～10級平均合格率												56.9%	

第2回

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級	計
志願者数	1,056	5,886	40,851	80,566	140,930	74,618	48,688	27,617	26,705	26,048	21,627	16,548	511,140
受検者数	921	5,174	38,490	77,155	135,151	71,061	46,350	26,406	25,464	24,642	20,524	15,324	486,662
合格者数	62	946	11,222	29,446	67,936	36,760	32,457	20,487	21,694	20,059	18,295	14,424	273,788
合格率(%)	6.7%	18.3%	29.2%	38.2%	50.3%	51.7%	70.0%	77.6%	85.2%	81.4%	89.1%	94.1%	
1級～10級平均合格率												56.3%	

第3回

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級	計
志願者数	995	5,780	41,773	70,240	106,502	59,925	59,256	46,529	46,723	46,249	40,895	34,020	558,887
受検者数	860	5,037	38,967	65,798	98,838	55,861	55,949	44,393	44,462	44,078	38,932	31,908	525,083
合格者数	112	557	11,245	25,343	46,984	29,707	41,843	35,188	38,323	36,266	35,379	30,288	331,235
合格率(%)	13.0%	11.1%	28.9%	38.5%	47.5%	53.2%	74.8%	79.3%	86.2%	82.3%	90.9%	94.9%	
1級～10級平均合格率												63.1%	

2022年度総計

	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級	計
志願者数	3,025	17,697	129,020	226,866	361,139	196,429	159,315	99,706	97,383	95,285	83,052	67,482	1,536,399
受検者数	2,628	15,548	121,969	217,372	344,882	186,829	151,684	95,642	93,193	90,933	79,450	63,350	1,463,480
合格者数	255	2,236	35,145	81,271	171,037	98,421	110,407	75,847	80,284	75,057	71,828	60,301	862,089
合格率(%)	9.7%	14.4%	28.8%	37.4%	49.6%	52.7%	72.8%	79.3%	86.1%	82.5%	90.4%	95.2%	
1級～10級平均合格率												58.9%	

※志願者数には、漢検 CBT 志願者および当協会が判断した事由（伝染性病や天災地変など）により受検を次回実施日に繰り越し、もしくは検定料を返金した志願者を含む。

⑥資格活用状況調査

全国の大学・短期大学、専修学校における「漢検」の活用状況の調査は、隔年で実施することとし、2022年度は実施しませんでした。次回の調査は2023年度に実施します。

⑦成績優秀者表彰

漢字学習に取り組んでいる人への努力を賞し、さらなる学習の励みとしていただく目的で、本年度「漢検」を受検した方や団体の中から「成績優秀者および団体」を決定しました。2023年7月頃に、成績優秀者表彰特設サイトをWEB上に開設する予定です。また、個人の部については、2023年8月に成績優秀者表彰式にて授与式を行う予定です。

個人賞 計206名・家族6組

◇日本漢字能力検定協会賞	1～10級	合計36名
◇全国検定振興機構理事長賞	1～10級	合計36名
◇優秀賞	1～10級	合計36名
◇奨励賞	1～10級	合計95名
◇特別賞		
<個人の部> 級を問わず年間での最高齢合格者		1名
1級・準1級各級の最年少合格者		2名
<家族の部>		6組

団体賞 計362団体

◇日本漢字能力検定協会賞	4団体
◇最優秀団体賞	20団体
◇優秀団体賞	101団体
◇奨励賞	155団体
◇特別賞	82団体

※受賞者・受賞団体数は2023年5月2日時点のもの

⑧各種表彰制度

・「満点賞」

満点合格者の努力を称え、さらなる学習の励みになるよう、各級に満点で合格された方に、満点合格証書を発行しました。当年度の満点合格者は延べ28,470名でした。

・「家族受検表彰制度」

生涯学習の奨励と受検者の学習意欲向上を目的として、家族そろって合格した場合に、個別の合格証書に加えて、合格した家族全員の氏名が入った「家族合格表彰状」を申請希望により授与しました。当年度の希望家族数は4,200件でした。

・「団体内表彰制度」

受検者の学習意欲の向上を目的として、各団体が独自の基準で合格者を表彰できるよう、「表彰支援セット（賞状・楯・文具）」を制作し、1日程の志願者数80名以上または年間累計志願者数80名以上の条件を満たした希望団体300団体に531セットを送付しました。

(2)「BJT ビジネス日本語能力テスト」の実施報告

2017年度より実施形式が従来のPBT（Paper Based Testing）からCBT（Computer Based Testing）に移行しています。

①実施日

各テスト会場の開設日時に応じて随時

②実施地

国内：43 都市 56 会場

海外：19 国／地域 57 会場

③受験料

7,000 円（税込、日本国内）

④志願者数

	志願者数
国内	3,787
海外	2,397
合計	6,184

(3)「文章読解・作成能力検定」の実施報告

漢字学習の先にある、日本語文章を読み解き、作成する能力を育成するための「文章読解・作成能力検定」を実施しました。

①検定級および検定料

2 級：4,000 円 準2、3 級：3,000 円 4 級：2,000 円

②実施日

公開会場日程	対象級	準会場日程	対象級
2023 年 2 月 12 日（日）	2～4 級	2022 年 8 月 25 日（木）	準2～4 級
		2022 年 11 月 5 日（土）	準2～4 級
		2022 年 11 月 11 日（金）	準2～4 級
		2023 年 1 月 18 日（水）	準2～4 級
		2023 年 1 月 27 日（金）	準2～4 級
		2023 年 2 月 12 日（日）	2～4 級

③会場数

	第1回	第2回	第3回	合計
公開会場	-	-	2	2
準会場	-	186	167	353
合計	-	186	169	355

④志願者数・受検者数・合格者数

2022年度総計

	2級	準2級	3級	4級	計
志願者数	626	5,420	13,338	7,691	27,075
受検者数	564	5,091	12,785	6,938	25,378
合格者数	417	3,303	9,737	5,398	18,855
合格率(%)	73.9%	64.9%	76.2%	77.8%	
	2級～4級平均合格率				74.3%

⑤文章力テストの実施

企業等の団体において、任意の日時・場所で受検できる文章力テストを実施し、1,619人が受検しました。

⑥資格活用状況調査

全国の大学・短期大学、専修学校における「文章検」の活用状況の調査は、隔年で実施することとし、2022年度は実施しませんでした。次回の調査は2023年度に実施します。

⑦文章能力養成のための研修およびアセスメントツールの提供

企業・大学等の団体に対して、集合型・オンラインによる研修や文章力アセスメントツール「論理的文章カトレニング」（利用者6,631人）を提供しました。

(4) 学習支援講座

①漢検生涯学習ネットワーク研修会

漢検1級・準1級合格者に漢字や日本語についてより深く学ぶ機会を提供するため、漢検生涯学習ネットワークを組織しています。本年度で会員数は11,274名に達しました。会員向けの通信を年3回発行（ホームページでも公開）しました。また、研修会を3回開催しました。

第31回研修会

日時：2022年4月10日（日） 13:30～15:30

場所：東京都・主婦会館プラザエフ

講演：『街角の不思議な漢字の源流を辿る』

戸内 俊介 氏（二松学舎大学教授）

申込者：70名

第32回研修会

日時：2022年7月3日（日） 13:30～15:30

場所：香川県・高松市生涯学習センター（まなびCAN）

講演：『大航海時代のキリスト教宣教師による漢字学習』

白井 純 氏（広島大学准教授）

申込者：12名

第33回研修会

日時：2022年11月6日（日） 13:30～15:30

場所：京都府・漢検 漢字博物館・図書館（漢字ミュージアム）

講演：『人名に使われる漢字の用法について』

岡島 昭浩氏（大阪大学大学院教授）

申込者：現地29名、オンライン 131名

②漢字教育サポーター育成講座（講師養成）

「漢検生涯学習ネットワーク会員」を対象に自らの漢字の知識を各地域の学習支援に生かせる講師を養成しました。

また、漢字教育サポーター登録者を対象にした研修会を年3回漢検生涯学習ネットワーク研修会と同日、同会場で行いました。

○4月度研修会

日 時：2022年4月10日（日）10:00～11:30

テーマ：『新型コロナ流行前後の対面講座』

申込者：26名

○7月度研修会

日 時：2022年7月3日（日）10:00～11:30

テーマ：『漢字で遊ぼう カードゲーム・イベント体験会』

申込者：2名

○11月度研修会

日 時：2022年11月6日（日）10:00～11:30

テーマ：『対面開催 講座実践のコツ』

申込者：9名

③漢字教育サポーター紹介制度

漢検の上位級（1級・準1級）の合格者で、一定の専門的知識を有している者（「漢検生涯学習ネットワーク」会員で「漢字教育サポーター育成講座」を修了した者）を漢字教育サポーターとして登録し、そのプロフィールをホームページ等で公開することにより、講座の開講を希望する団体等に紹介する学習支援活動を行いました。紹介実績12件。

漢字教育サポーター登録者数：836名（1期～10期合計）

(5) 教材の発行

広く一般の人々に対し学習の機会を提供する手段として、教材や参考書を発行し、書店や教育現場を通じて流通させました。あらゆる分野のあらゆる年齢層の人々に対し、その多様な学習ニーズに応える教材として、次の学習教材を提供しました。

①検定・テストに対応するもの

「漢検 漢字学習ステップ」「漢検 過去問題集」「文章カステップ」ほか

・・・・・・・・945,755冊

②日本語・漢字への興味関心を喚起するもの

「漢検 漢字辞典」「漢字学ことはじめ」「マンガで体験！にっぽんのカイシャ」「それ、知りたかった！ カイシャの日本語～マンガで学ぶ ビジネススキル&ボキャブラリー～ 難易度別語彙表付き」ほか

・・・・・・・・9,529冊

合計 955,284冊

また、上記の有料の教材や参考書だけでなく、無料で利用していただける教材も制作し、教育現場等を通じて提供しました。

①検定・テストに対応するもの

「漢検 目安級診断プリント」「漢字学習サイクルプリント」ほか

・・・・・・・・651,668部

②日本語・漢字への興味関心を喚起するもの

「漢字でわーく・わーく」「漢字王国と僕と私の不思議な15日間」ほか

・・・・・・・・930,464部

合計1,582,132部

③その他デジタル教材

「漢字学習アプリ『いちまると旅しよう！ しりもじ漢検』」「作文学習アプリ『いちまるとはじめよう！ことばむすび』」ほか

Ⅱ. 理事会・評議員会に関する事項

2022年度の理事会・評議員会の開催状況は以下の通りである。

・理事会（定例）

日 時：2022年6月7日（火）午前10時

場 所：当協会 京都本部および非常勤役員の活動拠点（web会議）

出席者：理事10名、監事2名

・評議員会（定時）

日 時：2022年6月22日（水）午後2時

場 所：当協会 京都本部および評議員・監事の活動拠点（web会議）

出席者：評議員9名、理事4名、監事2名

・評議員会（報告の省略）

日 時：2022年9月1日（木）

同意者：評議員11名

・理事会（定例）

日 時：2022年9月6日（火）午前10時

場 所：当協会 京都本部および非常勤役員の活動拠点（web会議）

出席者：理事10名、監事3名

・理事会（定例）

日 時：2022年12月6日（火）午前10時

場 所：当協会 京都本部および非常勤役員の活動拠点（web会議）

出席者：理事10名、監事2名

・理事会（定例）

日 時：2023年3月7日（火）午前10時

場 所：当協会 京都本部および非常勤役員の活動拠点（web会議）

出席者：理事10名、監事2名

・評議員会（臨時）

日 時：2023年3月22日（水）午後2時

場 所：当協会 京都本部および評議員・監事の活動拠点（web会議）

出席者：評議員8名、理事4名、監事2名

※法人運営の特記事項

当協会は、公益法人として、外部監査人による任意監査を継続して実施しています。

本年度で外部監査人による監査が10年を超えたため、外部監査人を見直すことで任意監査の有効性が高まると判断し、外部監査人の公募・選定を実施しました。

監査法人5社からの提案を受け、12月の理事会において、2023年度以降の外部監査人として清友監査法人を選定しました。

Ⅲ. その他

特記事項はありません。

Ⅳ. 後発事象

該当ありません。

Ⅴ. 附属明細書

2022年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので附属明細書は作成しません。

2023年 6月

公益財団法人 日本漢字能力検定協会